



札幌藻岩高等学校



探究活動を軸 に、生徒の学 びに伴走する

市立札幌藻岩高校
教諭 佐々木 佑季
2020.5.22



ミライ
design



(略歴)

教員12年目、本校着任3年目
数学科
3学年担任
進路指導部
探究委員会・3学年総合学習担当
サッカー部顧問

- 各学年40名8クラス
 - 進学希望の生徒が大半。4年制大学>短大・専門>就職（数名）
 - 男子バレー部、男子テニス部、陸上部が強豪。インターハイ出場。
 - 生徒は大人しく、素直であるが、反面、言われないとやらない（勉強もそれ以外もエネルギーが乏しい）自分の殻を破れない。
 - 令和3年度入学生より、2クラス減、単位制
- 学校改革が現在進行中**
- （目指すべき学校像、育む5つの力MOIWA5Bs、探究学習プログラム、コアルーブリックの作成・共有など…）
- 卒業生に、大泉洋さん、杉村太蔵さんなど



- 2週間に1回程度、担任が生徒全員に健康状態や学習状況を電話で確認。

- Wifi環境やオンラインのためのツールがあるかも確認。ない生徒には個別対応。

- コロナ禍における市教委との交渉

- (休校当初3月)Zoom、YouTube、G Suite、Classi **NG**

↓

- (現在)Zoom、YouTube、G Suite **OK!!**

しかし、校務PCで使用不可、原則個人のデバイスNG、Zoomは15分まで…

タイムリーに一斉に生徒に連絡をする手立てがない…

- 周辺の道立高校や私立高校ではオンライン授業がスタート。

- ➔ **一部の先生方の焦り…埋まらない市教委の方針と現場の思い**



- 様々な学校の実践事例を伺うことができる
 - 悩み事は学校により様々あれど、本校よりも進んでいることに愕然
 - 一方、自分の学校よりも進んだ事例を聞ける。アーカイブは管理職にも提出。今後起こりうる課題として共有
- 先生方との対話からアイデアを創造
 - 自校ではどのような取り組みができるか？
 - こんなチャレンジをしてみよう！

PJでの気づきや学びを本校の先生方へ共有し、生徒に対しどのようなアクションが出来るか、アイデアを共創

- 探究委員の目標

- **学びの土壌**を豊かにする。学校を、生徒も先生もチャレンジと失敗が許される安全・安心の場に

- 「やってみる!!」「Yes, and…」が標語

- 学びへと自走する生徒をいかに育てるか？

- 学びへの引き金は生徒により異なる。様々な**経験**や**体験**が必要？

- 「学校とは何か？」 「生徒の学びとは？」 本質に立ち返ることができる場所

- 生徒にとっての学校とは？

- ・ 友人や教員との**繋がり**を確認できる場所
- ・ 楽しい事や悩み事を**共有**できる場所

生徒同士の**繋がり**や生徒と教員の**繋がり**を**再構築**することが急務と確認。



探究学習に重点。コアな生徒から多くの生徒へ**輪を広げる**

● 新型コロナに対する問いと気づき

➤ 歴史的な大きな転換点にいるこの日常から、

1年：「高校生活の展望を考える」

2年：「地域と暮らしを見つめ直す」

3年：「自己を見つめ直す」

ことについてアウトプットしてみる。


● 北海道の宝物プロジェクト

～オンライン探究学習・SHISHOKU会～

- 他校の探究学習に参加。
- 北海道と九州の高校生が対話。オンラインだから

こそできる学び。



R2 46期3学年 総合的な学習の時間(ミライ design) 5/8(金)配布課題 

新型コロナに対する問いと気づき → 自分のミライを見つめ直す

新型コロナウィルスは、今現在はもちろん、今後の私たちの生活に大きな影響を与えることは間違いありません。
「歴史的な大きな転換点にいる」今、そこから何を感じ、

テーマ
取組の視点

- 新型コロナから何を感じ、何に気づいたか
- 「新型コロナ」を、自分事として捉え、何を学びたいか
- 高校卒業後の進路を見つめ直す

STEP 1 ～ STEP 5に自分の考えを自由に述べてください。構いません。また、関連のある新聞記事やニュース記事などを見つけてください。

STEP 1 新型コロナウィルスに関するニュースを見て、「思っていたことと違う点」を洗い出してみよう。

STEP 2 新型コロナウィルスによって、自分の生活(住む地域など)にどのような変化が起きましたか? 思いを整理しよう。

STEP 3 高校卒業後の進路希望について、該当するものを選び、理由を整理しよう。

Q1. 新型コロナの影響を受けて、進路希望は変わりましたか? → ①大学・短大進学 ②専門学校進学 ③就職希望

Q2. 現在の進路希望は? → ①大学・短大進学 ②専門学校進学 ③就職希望

Q3. 【大学・短大進学希望の場合】
希望の学問系統は?
①人文科学系統 ②社会科学系統 ③理学系統
④医療・保健系統 ⑤家政系統 ⑥教育系統

Q4. 進路希望先を記入(具体的に):

STEP 4 STEP3のQ1.「変わったor変わらない」の理由を書き出しましょう。
★STEP 1・2の記述を踏まえて、理由を言語化してみよう!

STEP 5 STEP3のQ4.に記載した進路希望先における新型コロナの影響・その対策について調べてみよう。
★自分がその希望先の学生だと仮定し、各大学などのホームページに掲載されている対応を参考にしてみよう!
★公務員・就職希望の場合は、採用情報などもチェックしてみよう!

次のSTEP(予定) 高校卒業後の進路希望や10年後の自分のミライを考えていきましょう!!
ミライ designのテーマは、「自分自身のミライをdesignする」。afterコロナの社会は、これまでの社会と大きく変化するはず。そんな世の中のミライを思い浮かべ、自分のミライにつながる道を見つめ直しましょう!

休校明けに提出 3年 組 番 氏名

- ミライdesignテーマ別講演@Zoom

- 働く方々にその仕事の内容や、社会の変化に伴うミライにおける仕事や働き方の変化を取材
- 取材映像を学校HPにて公開
- 様々な講師とSDGsで繋がる
- 取材後、生徒もZoomに入り、自由に質問や意見交流

- 「高校生みらいラボ」に生徒を繋ぐ

- オンラインで社会人と繋がり、ミライについて考える
- 自分の学校外の高校生・初対面の高校生との対話

高校生みらいラボHP https://peraichi.com/landing_pages/view/5darp



高校生みらいラボ



Future Lab
for High School Students



- 休校中の学習課題は全員に郵送
- 学習課題を補助するものとして解説動画を学校HPにアップ
 - 各教科の新着動画が乱立するため、動画アップ情報を一か所に掲載
生徒が情報を取りに行きやすい、学校HPのデザインに変更
 - 解説動画は長くても20分～30分、長時間の視聴で生徒が疲れないように配慮
 - 休校明け**学校再開後も続けてほしいとの生徒からの声**
- Zoom等の双方向型は**進路面談や自習・質問室といった用途で試験的に運用**
 - 使用人数や使用時間に大幅な制限があり。
 - 授業で活用すると、教員が一度に複数名の生徒を掌握できない。
 - 他の生徒も参加している中で、「顔出しNG」や「発話NG」な生徒が一定数おり、授業として用いると教員側と生徒側とのマインドでギャップが生じてお互い消化不良になる。



- 休校中の郵送した課題や動画学習については、今のところ**評価しない**
- 単位制に向けた新しい学校づくりの中で作成したコアルーブリックに基づき、休校中の学習について振り返りを行ってみたい。

藻岩高校で育みたい5つの力MOIWA5Bs

- ①ことばの力 ②考える力 ③思い浮かべる力
④試そうとする力 ⑤やり抜く力



MOIWA5Bs × 数学 ルーブリック評価表

休校中の自学自習や、通常の授業再開後に、生徒自身がその単元や授業全体を振り返るための指標として活用することから始めてみる。

◆生徒自身の自学自習の振り返り用

| | 5Bs | 評価基準 | | | |
|-----------|--|---|---|---|---|
| | | S (4点) | A (3点) | B (2点) | C (1点) |
| ① ことばの力 | 知識を深め、適切な言葉を使って分かりやすく伝えることができる力 | 自分が作成した答案を見返したとき、適切な式やそれを補足するための言葉の記述があり、他者も認める模範的な解答で、わかりやすく伝えることができる。 | 自分が作成した答案を見返したとき、適切な式やそれを補足するための言葉の記述があり、わかりやすく伝えることができる。 | 適切な式を用いて、伝えようとする姿勢が、自分の答案から感じることができる。 | 式の書き方が誤っており、伝えることができていない。伝える気持ちを感じられない。 |
| ② 考える力 | 情報の分析や適切な判断をもとに、根拠を示しながら、筋の通った考えを導くことができる力 | 授業(動画)で述べられていた考え方や判断をもとに、対峙している問題に対して、もともとなる定義・定理や他の単元との関連、根拠を示しながら、筋の通った解答を作成することができる。また、誤答に対して、何が課題かを想像し、その克服に向けて、必要な知識・技能の習得に必ず取り組む。 | 授業(動画)で述べられていた考え方や判断をもとに、対峙している問題に対して、根拠を示しながら、筋の通った解答を作成することができる。また、誤答に対して、何が課題かを想像し、その克服に向けて、必要な知識・技能の習得にむけた努力ができる。 | 筋の通った考えを導き出すことができるようになった。導き出そうと努力している。 | 筋の通った考えを導き出すことができていない。導き出そうとすらしめない。 |
| ③ 思い浮かべる力 | 様々な視点から想いを巡らせ、課題を発見する力 | 対峙している問題に対し、既習事項や他の単元との関連をイメージしながら様々なアプローチができ、なにかが最適か考察・判断することができる。 | 対峙している問題に対し、既習事項や他の単元との関連をイメージしながら最適なアプローチを理解し、考察することができる。 | 対峙している問題に対し、どのようなアプローチが望ましいかイメージすることができるようになった。 | 対峙している問題について全く考えることができていない。考えようすらしめない。 |
| ④ 試そうとする力 | 好奇心と勇気を持ち、初めの一歩を踏み出す力 | 好奇心や勇気を持って、学習に目を向け、自ら数学の学習に取り組むことができることに加え、他者と協同的に学び、他者をも学習へと向かわせる影響力をもつ。 | 好奇心や勇気を持って、学習に目を向け、自ら数学の学習に取り組むことができる。 | 数学の学習、目の前の問題にきちんと取り組もうという気になれる。 | 目の前の問題に、チャレンジできない。 |
| ⑤ やり抜く力 | 結果を次の行動に生かし、前向きな姿勢で挑戦し続ける力 | 自分のレベルに応じた難しい問題についても果敢にチャレンジをし、自分の答えを導くようにしている。また、誤答から自分の課題を発見し、問題を理解し、次の学びへとつなげる。 | わからない問題についても、解答を見ることはせず、正解・不正解は別にして、自分の答えを導き、問題を理解しようとする。 | わからない問題については解答を見ながら、きちんと答えまでたどりつき、理解しようとする。 | 目の前の問題をはじめ数学を学習しようと思えない。 |

S…十分に到達出来ている A…到達できている B…一部到達出来ている C…努力を要する

9

本校での取り組み～休校中の過ごし方調査～

最近の1日の学習時間

| 時間(分) | ～30分 | 30～60分 | 60～90分 | 90～120分 | 120～180分 | 180分～ |
|-------|------|--------|--------|---------|----------|-------|
| % | 4.8 | 3.9 | 11.8 | 11.8 | 26.5 | 41.2 |

最近の起床時間

| 時間 | ～6時 | 6時～7時 | 7時～8時 | 8時～9時 | それ以降 |
|----|-----|-------|-------|-------|------|
| % | 6.0 | 23.5 | 52.9 | 17.6 | 0 |

最近の就寝時間

| 時間 | ～21時 | 21～22時 | 22～23時 | 23～24時 | 24時～ | その日によって異なる |
|----|------|--------|--------|--------|------|------------|
| % | 0 | 3.0 | 8.8 | 70.6 | 17.6 | 0 |

学習内容・学習方法で該当するもの（複数回答可）

| 方法 | % |
|------------------|------|
| 郵送された学校からの課題 | 100 |
| 課題以外の自学自習 | 44.1 |
| 学校HPで出される課題、動画視聴 | 70.6 |
| 業者の授業動画 | 14.7 |
| 塾や家庭教師 | 8.8 |
| 教科書の例題などの復習 | 2.9 |



STEP1 休校中のマインドセットを教員間で共有する

STEP2 学校（学年・個人）としての学習支援の方針を定める

STEP3 活用するデジタルツール、ルール、教材等を決定し、準備する

STEP4 学習支援の方針を生徒・保護者に共有する

STEP5 学習支援を開始し、継続的に改善する ※分散登校の活用、1学期の成績を追記

STEP6 学校再開後に実現したい新しい学校の姿を検討する

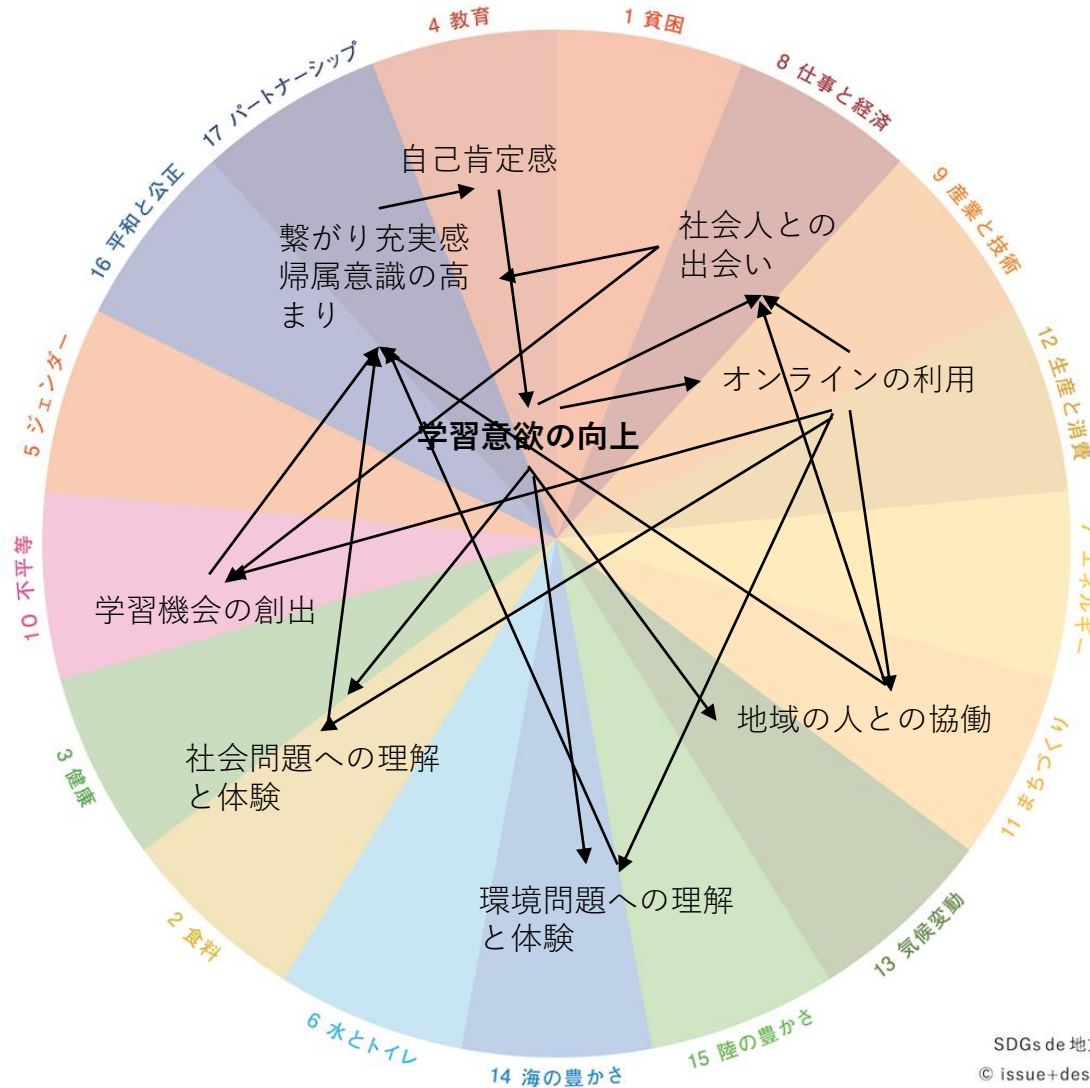
学校休止中の「生徒の気づきと学びの最大化」プロジェクト オンライン対話のアーカイブver2.1より抜粋



- 休校中の**先生方のチャレンジ**×**生徒の学び**=**新しい学びのスタイル**を探究
 - 休校前の学校の姿に戻るのではこれまでの学びが無意味に
- 従来のフォルダ型の学びから「**ハッシュタグ型の学び**」へ
 - 藻岩高校という枠にとらわれず、個人の興味・関心に応じて、共に学びたい人、繋がりたい人と価値を共創する経験をさせたい。**地域との協働、オンラインで距離の壁を破る。**
- オフライン・オンライン問わず、場になじめない生徒への支援
 - 教員の役割は**伴走**。チャレンジできている生徒にはなおもっと!! そうでない生徒には寄り添いそっと背中を押してあげる。時には受け入れてあげる。
- 教員自身が学びを止めない。学校外と繋がる。



- オンラインの学びが生徒の学びを豊かにし、学習意欲の向上という正の連鎖を起こせるか？



- これまでのデジタル・オンラインの学びを土台に
「デジタル×アナログ」
「オンライン×オフライン」
掛け算の相乗効果でワクワクなチャレンジが出来る!!
そんな気持ちで生徒と再会したい。



ご清聴ありがとうございました

- 今回はこのような機会をいただきましてありがとうございました。お声かけいただきました小村さん、芦野さんはじめ、PJの先生方、共に働く藻岩高校の先生方には感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。
- 拙い本校の実践と発表ではございましたが、ご意見・ご質問などありましたら、
市立札幌藻岩高校 佐々木佑季 [mail:yuki.sasaki@sapporo-c.ed.jp](mailto:yuki.sasaki@sapporo-c.ed.jp)
または facebookメッセージ
でご連絡ください。
「こんな実践しています!!」などの、事例の共有など大変ありがたいです。

